会報

No. 69

平成18(2006)年3月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075)762－4655

本を通ってこどものメッセージが届く

児童書専門店「きりん館」主宰　吹田恭子

こどもの本と関わってやがて三十年になる。平坦ではなかった歳月の中には、いくつもの忘れられないシーンがある。

歩き始めたばかりの女の子が、おしめをくっつけたお尻をふりふり「モコモコ、モコモコ…」と訴えかけてくる。どうやら絵本のタイトルらしい。たどっていくと『もこもこもこ』のことだった。以後何百回と手にすることになるこの絵本の、不思議な魅力を教えてくれたのは、一歳を過ぎたばかりの幼い読者だった。彼女はまた、こどもからのメッセージが絵本を通して届くことも教えてくれた。

小児科病棟でベッドに本を届けるボランティアに入った時のことも忘れられない。四歳のかなちゃんが、ブックワゴンの本を選んでいる。借りようかどうしようかと散々迷った末に、「やっぱりこれも！」と選んだのは『ノンタンがんばるもん』だった。たくさんの絵本を読んできている彼女が、あれにこだわったわけはなんだろう。帰ってからあらためて開いてみた。ケガをしたノンタンが、こわい注射にがんばって立ち向かう姿があった。ふいに目頭が熱くなった。小さな身体で過酷な治療に耐えている日々。彼女の健気な姿とその思いが、絵本を通って押し寄せてきた。こどもたちの思いのたけは、絵本を選ぶというただそれだけのことを通してさえ伝わってくるのだ。

学校図書館に提供しているケアの場面でも、こども読者から届くものに揺さぶられる。

パソコン端末のテーブルに置かれた小さなノート。図書館に入れてほしい本をリクエストするための一見なんでもないノートである。元気な文字が所狭しと躍っている。どこからどんな風にキャッチしてくるのか、リクエストされている本は実に多様で、情報は驚くほど早い。タイトルの横には、赤鉛筆の注記がある。「あります」は蔵書にあり、「注文中」は発注したというこどもたちへの返事である。読みたい本を素直に先生に伝えることができる。そしてそれはほどなく自分たちの手元に届く。こどもにとって、小さなノートは自分と本と先生をつなぐだいじなアイテムになる。こどもたちは喜々として鉛筆を走らせる。

図書予算の豊富な私立の小学校だからできるという側面もないとは言わない。が、それだけでできるものではない。こどもであれおとなであれ、読書の主体は読者自身だという視座がしっかりとしているからこそできるのだ。なぜこの本なのか。そこからは、こどもの暮らしや嗜好がかいま見えてくる。小さなノートは、こどもの内にあるものを日常的にキャッチするアイテムでもある。

あれやこれやのシーンはみんなひとつのことを語っている。こどもの本の読者はこども自身であって、本を媒体にさまざまな情報を発信しているのだということを。そしてそのことこそがこれまで私を支えてくれたのだ。忘れられないシーンをいっぱい届けてくれたこども読者をはじめ、お力添えくださったたくさんの方々に、この場をお借りして心からの感謝を申し上げたい。

平成十七年度 京図連協実務研修会

京都府子ども読書活動指導者研修会

平成十七年十一月二十六日（土）京都府子ども読書活動指導者研修会を「文化パルク城陽」を会場に、南部ブロックの実務研修会とも位置づけ、開催。府内全域から二百名以上の参加者がありました。

午前は「おとなが今、子どもたちにできること～本をとおして子どもの声を聴く～」と題した児童書専門店主宰吹田恭子氏の講演、午後は「本を楽しむアニマシオン」と題した九州大谷短期大学助教授穴見嘉秀氏の講義及び実技指導が実施されました。

中部実務研修会

平成十七年十二月十四日（水）午後、実務研修会（中部会場）を京都ライトハウスを会場に開催。府内から三十二名の参加がありました。

「視覚障害者サービスのゆくえ～資料の多様化とサービスの拡大について～」というテーマで、京都ライトハウス情報ステーション所長加藤俊和氏の講演、その後京都ライトハウスの施設見学が行われました。

◎京都府子ども読書活動指導者研修会に参加して

宇治田原町立図書館　鈴木　琢也

今年度の京都府子ども読書活動指導者研修会は城陽市にある「文化パルク城陽」で開催され、午前中は児童書専門店「きりん館」の主宰で三十年以上にわたり、子どもの読書に取り組んでこられた吹田恭子先生による講演。午後からは九州大谷短期大学助教授であり、本場スペインでの研修実績もある穴見嘉秀先生による「アニマシオン」の講義並びに実技指導でした。

吹田先生の講演はおなじみの児童書を題材にあげ、本と子どもの声（感想）を分析しながら子どもの読書を考えていくといったもので、印象に残ったのは、「（時として）大人は子どもが本当に望むものより、大人が選ぶ『これがいいもの』という本（価値観）を押しつけてしまうことがある」という言葉でした。これは現在、「子どもに本を読ませたい」という焦りから「押しつけ」の読書促進に走りかねない私自身を自戒させてくれたとともに、読書における子ども自身の思い（視点）について考えさせてくれるきっかけとなりました。

午後からの穴見先生の講義・研修は、勉強不足であいまいなイメージだった「アニマシオン」について、実技を中心に指導していただき、初めて具体的な取り組み方、活用の仕方がイメージでき、今後の図書館での事業展開にたいへん参考になりました。

子どもを読書へ誘う取り組みは、実践するのに多くの課題がありますが、その取り組みの成果は子どもにとって確かに実りのあるものだと予感でき、その重要性を強く認識した有意義な研修会でした。

◎実務研修会（中部会場）に参加して

南丹市日吉図書室　久保　里美

平成十七年十二月十四日に、京都ライトハウス情報ステーション所長加藤俊和氏の「視覚障害者サービスのゆくえ」と題した講演を拝聴する機会をいただきました。

『京都ライトハウス　情報ステーション』には、昨年一月の改装以来初めて行きました。視覚障害者の方の施設として様々な工夫があるのはもちろんですが、授産施設として喫茶ルームや種々グッズ製作販売のほか、上層の窓からは、京都の町が一望でき、情報ステーションの名の通り、誰もが立ち寄れ、情報を共有・発信している、明るいエネルギーを感じる建物でした。

加藤館長は、会報六十八号でお顔は拝見していましたが、中途失明など視覚に障害を持ち、失意の底にあった方と長年直接接して支えてこられたご経験からか、人間としてとても深みのある方であることが、難しい内容をとてもソフトに話されることでわかりました。また、最近小学校からよく受ける、総合的な学習のなかで、点字併記絵本だけでなく、ライトハウスの点字・音訳資料に触れたいという希望を受けていただけることがわかりました。今まで、視覚障害者に対してのみの貸出しだとあきらめてもらっていましたが、貸出してもらえるものもあると親切に教えていただきましたので、今後小学校からの依頼の際には、喜んでもらえそうです。

当室には、朗読奉仕の希望がまだないのですが、地域の方々の潜在的な求めにも対応できる体制作りが必要だと感じました。

平成十七年度

全国図書館大会

10月26～28日
茨城県水戸市

◎全国図書館大会に参加して

京都市醍醐中央図書館　木下　義高

ここ数年、自治体の構造改革が加速し、図書館を取り巻く環境も厳しさを増しています。

このような状況の中、本年度は「図書館のみらいを探る」をテーマに開催され、今後の図書館のあるべき方向性を考える上で、非常に意義のある大会となりました。

私が参加した第一分科会では、「変化への可能性を拓く」と題して行われましたが、特に前鳥取県立図書館長の斎藤明彦氏の「この厳しい状況こそ可能性を広げる好機である」という提言と具体的な実践事例は大いに参考になりました。

多くの人には、図書館は趣味的という印象があり、このイメージを解消するために図書館自らがアピールし、住民から「生活していく上で役に立つ」「必要な情報は図書館に行けば得られる」という意識を持たれることが生き残るためには重要であること。また、近年図書館の利用者が増えたといっても、未だ利用したことのない人の方が多いことも事実です。

全体会後の事例発表でも、日々の業務をこなすだけでなく、地域の特性を生かした明確な運営目標を定めて、付加価値を持った事業展開が進められていることが報告されました。

特にレファレンスデスクの設置など情報提供機関としての位置づけをより鮮明にして取り組まれている点は、発表されたすべての図書館に共通していました。

最後に、まとめとして筑波大学の薬袋教授から「これからの図書館は地域の読書要求に応えるとともに、地域の全ての分野の調べものを支援することによって、地域の人々の生活と仕事に貢献する。地域の人々の時間と労力を節約し、適切な判断をできるようにすることが図書館の可能性を拓くことになる。」との提言により締めくくられました。

京都市では一月からインターネットによる予約を始めており、他の自治体と同様にＩＴ化が進んでいます。ただ、単にハード面の整備を図るだけでなく、職員一人ひとりのモチベーションを高めることにより、積極的な図書館運営を進める根幹になることも改めて認識し、今後の実践活動に役立てたいと思っています。

平成十七年度

近畿公共図書館協議会研究集会

平成十八年一月二十六日
京都府総合教育センター

近畿公共図書館協議会研究集会（兼児童奉仕部門研究集会）開催される

「未来を育む図書館　―公共図書館の可能性を探る―」を研究主題として、平成十八年一月二十六日（木）近畿公共図書館協議会・京都府立図書館共催で京都府総合教育センターで開催され、約百十名の参加がありました。

午前中、「公共図書館パワー　―シアトル公共図書館の紹介を中心に―」と題して大阪府立中之島図書館司書部長の稲垣房子氏による近未来を見据えた基調講演が行われたほか、午後には、神戸市立新長田図書館長の渡辺節子氏による「神戸市立図書館の地域連携推進への取り組み」、及び豊中市立野畑図書館司書の西口光夫氏による「公共図書館と学校（図書館）との連携」の二つの事例発表（実践報告）がなされました。そのあと会場からの発言も相つぎ、熱心で活発な研究協議が行われました。

◎近畿公共図書館協議会研究集会に参加して

京都府立図書館　福田佐貴子

午前中の講義では、シアトル公共図書館の紹介がされました。建物の中にはリビングルームと呼ばれるスペースがあることや、返却図書がＩＣタグにより仕分けされ、自動的に所定の場所に収まる等、驚くことがたくさんありました。しかし、何より素晴らしいと思ったのは、開館を心待ちにされている多くの利用者の様子です。それはもちろん、施設の良さもあるでしょうが、図書館員として最も大切なことは地域との連携であるという考え方のためのように思います。採用の条件として、「垣根を作ることなく利用者と話せるか」というものがあり、それが図書館に足を運びやすい一因になっているのではないかと思いました。

午後からの事例発表でも地域との連携について報告され、長期的な取組みをされている様子が伺えました。まだまだ支援の段階だそうですが、地域の人たちにとって図書館がもっと身近な場所になればと思います。

学校へ出向いてブックトーク

※舞鶴市立図書館の取り組み

舞鶴市立西図書館　竹之内栄子

舞鶴市の図書館が初めて小学校でブックトークを行ったのは、平成七年のこと。読書活動推進の指定校となったある小学校に頼まれて出向いたのが始まりでした。当時はブックトークという言葉は知っているけれど、実際には誰かがするのを見たこともないし、ほとんど資料もないという状況。でも、子ども達の手に本を届ける良いチャンスと思い、手さぐり状態ながらも挑んでみたところ、意外にも好評を得ました。そして、しだいに口コミで他の学校にも広がり、市内のほとんどの学校から依頼を受けるようになりました。その頃には研修会などでブックトークについて学ぶことも多くなりましたが、まだまだネタ不足でしたし（今でも）、依頼が同時期に集中することも多く、あまりに過酷な毎日に悲鳴をあげていました。学校へ訪問することは意義あることですが、そのために図書館内での業務が疎かになりそうな状態だったため、もっと計画的に図書館の事業としてブックトークを行おう、ということになりました。各学校から年度始めに申請書を出していただいた上で、一年の計画をたて、児童数の多い学校には学年を限定させていただくことにしました。そして十年、東西図書館合わせて二十五の小学校、養護学校等（中学校に行くことも）に出向いています。いまだに準備に手間取り苦しいときもありますが、本をみつめる子ども達の真剣なまなざしにふれたり、放課後、リストを持ってやって来るのを見ると、やって良かったという気持ちになります。ただ、個人の努力に頼らなければやっていけない現状に疑問を感じることも。また、脇明子さんが『読む力は生きる力』で指摘されているように、テーマに沿って選ぶために、本のよしあしが二の次になったり、本と本のつなぎの技術に重点を置き過ぎたりと、良い本を子どもたちに紹介するというブックトークの原点から少しずれてきているように思えます。

こんな風に、まだまだ試行錯誤しながらのブックトークですが、それでも「本のことは図書館に」と学校から頼りにしていただいている以上は、できる限り続けていきたいと思っています。

読んで集めよう！読書スタンプ

※山城町立図書館の取り組み

山城町立図書館　中川　環

子どもの読書離れが指摘される中、ここ数年、山城町でも児童の図書館利用は年々減少傾向にありました。そこで、子どもの読書活動推進のため、平成十七年四月二十三日（子ども読書の日）から、読書スタンプを開始しました。

希望者に読書カードを渡し、本の貸出冊数に応じて、スタンプを押し、スタンプが百個たまると「読書家認定証」と、おまけとして職員手作りのしおりを渡しています。

読書カードは全部で八種類、スタンプは職員一人一人が違うものを持ち、全部で七種類あります。様々な色や柄のスタンプがあるので、子どもたちは楽しみながら続けることができるようです。また、読書カードと貸出券をリボンで結び、セットにすることによって、貸出券を忘れる子どもが以前より少なくなりました。

読書カードの開始以降、児童の図書館利用者数は増加しており、十二月末時点で、前年度より十二％増となっています。多い月には、前年度より三十％近く利用者数が増加しました。

平成十七年十二月末での参加人数は、

総参加数	346名
初段（100冊）	
到達者	45名
二段（200冊）	
到達者	5名
三段（300冊）	
到達者	1名

となっています。

今後も、子どもたちに少しでも読書の楽しみを知ってもらえるような取り組みができれば、と思います。

住民サービス「夜間開室！」

※和束町体験交流センター図書室の取り組み

和束町体験交流センター図書室　北　美智子

平成十五年四月から「こどもの読書週間」・「秋の読書週間」・「夏休み」期間中の毎週金曜日、午後八時まで時間を延長して、夜間貸出を行っています。

特に夏休みは、家族での利用が多く、利用者数も増加し、「次回はいつですか？」と聞かれるようになりました。

図書室では、読書を通して本との豊かな出会いの場、地域の人たちの交流の場をつくり、仕事帰りの方にも利用してもらえるよう、誰もが気軽に出入りしやすい図書室として、また、より多くの住民の方に利用していただくために住民サービス「夜間開室」を実施しました。

京都府図書館総合目録ネットワーク（K-Libnet）について

府立図書館のシステム更新に伴い、K-Libnetについても平成十七年十月十四日にシステムが一新されました。

データ提供館（集中型総合目録）と横断検索館（分散型総合目録・web-opac横断検索）を合わせて検索する機能を持つ全国でもまれな併用型システムです。ISBNで書誌を同定することにより検索結果の書誌割れを防ぐなど、さまざまな工夫がなされています。より早く便利に、目的の図書の所蔵を知り、相互貸借することができるようになりました。

さらに、レファレンス機能、リクエスト機能、ウォンテッド機能が付加されています。

併せて雑誌・新聞総合目録の構築が進められ、平成十八年一月に検索が、二月に相互貸借がK-Libnetでできるようになりました。今後検証を経て、早期に一般にも雑誌・新聞総合目録が公開される予定です。

また、府立貸出文庫用図書についても、データ化が進められ柔軟に運用する方針がとられたため、K-Libnetで相互貸借ができるようになりました。

平成十七年度 図書館・読書施設等研修（南部会場）

平成十七年九月二十八日
京田辺市立中央図書館

◎図書館・読書施設等職員研修（南部会場）参加報告

京都府立図書館　辰己　裕佳

例年工夫をこらして実施されている職員研修ですが、今年度は図書の修理と製本がテーマでした。講師として、大学の司書講習で製本技術を教えておられる藤原　孝氏を迎え、実習を中心に図書補修について学びました。

製本の種類についての講義の後、実際の修理製本作業を通して、補修方法の指導を受けました。参加者が各自の勤務先から要修理本を教材として持ってきていたため、作業にはより真剣さが増し、質問も活発になされていました。表紙が破れたもの、背が壊れたものなど一冊一冊の図書の状態や痛み具合に合わせた修理の技をそれぞれ教わりました。抜け落ちたページのかがり綴じの仕方や、特にばらばらになりやすい無線綴じ製本図書の補修方法などは、館に帰ってすぐにでも役立ちそうだと感じました。

三時間の予定時間が短く思えるほど楽しく実り多い研修でした。学んだことを日々の業務で生かしていきたいと思います。

市町村合併に伴う図書館等の名称変更について

平成17年度は、４月１日の京北町の京都市への編入を皮切りに、京都府内においても、多くの市町村の合併がありました。変更された図書館名等を一覧にまとめました。

市町村合併に伴う図書館等の名称変更一覧

合併後市町村名	図書館名 新	図書館名 旧	合併年月日
京丹波町	京丹波町中央公民館図書室	丹波町中央公民館図書室	平成17年10月11日
	京丹波町和知ふれあいセンター図書室	和知町ふれあいセンター図書室	
	京丹波町瑞穂教育分室	瑞穂町教育委員会	
福知山市	福知山市立図書館中央館	福知山市立図書館	平成18年１月１日
	福知山市立図書館三和分館	三和町立図書館	
	福知山市立図書館夜久野分館	夜久野図書室	
	福知山市立図書館大江分館	大江町立図書館	
南丹市	南丹市立中央図書館	園部町立園部中央図書館	平成18年１月１日
	南丹市八木図書室	八木町立郷土資料館図書室	
	南丹市日吉図書室	日吉町生涯学習センター図書室	
	南丹市美山図書室	美山町立図書館	
与謝野町	与謝野町立図書館	岩滝町立図書館	平成18年３月１日
	与謝野町立図書館野田川分室	野田川町中央公民館図書室	
	与謝野町立図書館加悦分室	加悦町中央公民館図書室	

平成十七年度第三回理事会

平成十七年度第三回理事会が、二月十五日（水）宮津市中央公民館において開催され、報告・協議等が行われました。

山本会長挨拶の後、今年度事業実施状況等について、○子どもゆめ基金事業○子ども読書絵てがみコンテスト○京都図書館大会○京都府図書館総合目録ネットワーク○図書館・読書施設等職員研修○各専門委員会活動状況等についてそれぞれ報告されました。併せて、府立図書館から、雑誌総合目録、インターネット取り寄せ、府立貸出文庫、連絡協力車の巡回コース変更（案）等について説明がありました。

続いて、○今年度総括○次年度事業計画及び予算（案）○次年度の理事会及び専門委員会の体制等について協議されました。

なかでも子どもゆめ基金事業は、会場地の城陽市教育委員会をはじめ、多数の方々に協力を得て成功裡に開催できたこと、次年度は中部ブロック（京都市）で開催することで了承を得ました。合わせて、定期総会を五月中旬に開催する方向で進めることとなりました。

最後に、各ブロックの活動状況を報告いただきました。

新任図書館長紹介

加茂町立図書館
山本　欽一（敬称略）

★専門委員会ニュース★

◎相互協力委員会

平成十七年度の「拡大相互協力委員会」が十二月十五日（木）、府立図書館において開催され、「貸出文庫用図書」の運用拡大について、また「雑誌・新聞総合目録ネットワーク」、「インターネット取寄せ申し込みサービス」の実施についてそれぞれ報告・協議がなされた。府立図書館から貸出文庫用図書については、TRCのMARC化が完了した図書について貸出文庫の趣旨を踏まえた上で機関貸出資料として運用開始する予定であり、「雑誌・新聞総合目録ネットワーク」については各図書館・読書施設から提供のあったデータについて基本的には現行のK-Libnetの図書と同様のスタイルで提供する方向である、との報告がなされた。また、府立図書館HPの「市町村の窓」については、今回の内容更新にあたって新たに京図連協の項目を設けたこと、そして「図書館相互協力に関する指針」を公開したことについての説明がなされた。交流協議では登録時の住所や本人確認について情報交換がなされた。

◎研修研究委員会

◇京都府子ども読書活動指導者研修会（兼・南部地区実務研修会）の報告

十一月二十六日（土）に城陽市に於いて開催。午前の講演『おとなが今、子どもたちにできること～本をとおして子どもの声を聴く～』に続き、午後は『本を楽しむアニマシオン』の実技指導があり、公共図書館関係者だけでなく、教諭やボランティア等、二百十九名の幅広い参加者がありました。

◇北部地区実務研修会の報告

十二月七日（水）に宮津市に於いて『図書館における危機安全管理』をテーマで開催予定でしたが、講師の瑕疵により講師欠席。急きょ、出席者協議の結果、テーマに沿った意見交換による研修会に変更し、十九名（申込者は二十九名）参加で実施。各館の事例と対応策から、自館での展開を図るための情報を得る内容でした。

◇中部地区実務研修会の報告

十二月十四日（水）に京都市北区の京都ライトハウスに於いて『視覚障害者サービスのゆくえ～資料の多様化とサービスの拡大について～』をテーマに三十二名の参加で開催されました。

◎広報委員会

第三回広報委員会を一月十九日（木）、福知山市立図書館中央館で行い、会報六十九号の編集について協議を行いました。

現メンバーでの編集は今回が最後で、次号からは新しい広報委員による紙面となります。

★編集子★

二年前、最初の広報委員会で「会報の特色をどのように出せばよいのか」という協議をしました。私たちは、結果、〝加入館の多彩な事業やトピックスをできるだけ多く掲載しては〟ということでこれまで二十一館を紹介してきました。そして、この紹介を通して、各館相互で事業ノウハウの意見交換もされたようで、〝親密度が増した〟という声も聞いております。少しでも広報誌としての役割が果たせたのかな、とメンバー一同喜んでおります。今後とも交流の深まりを願ってやみません。

最後になりましたが、これまでお忙しい中での、執筆や紙面づくり、また、よきご助言をいただきました多くの皆様にお礼を申し上げます。